



「三島村と出会えてよかった！」

～しおかぜ留学生は三島村でたくさんのお話を学んでいます～

しおかぜ留学生が留学して思ったこと、学んだことなどを地元の新聞「南日本新聞」の投稿欄にたくさん投稿してくれていますので紹介します（学年は掲載当時です）。

留学を考えている「あなた」「保護者の皆さん」、ぜひ参考にしてください！

【2022年度】

【掲載内容】

題名	掲載日	出身都道府県
1 みんなに優しく	2022年4月22日	鹿児島県
2 新しい発見の毎日	2022年6月2日	鹿児島県
3 ハマギの夢かなう	2022年6月3日	神奈川県
4 黒島の山を体験	2022年6月18日	埼玉県
5 山海留学して目標できました	2022年6月27日	茨城県
6 新しい島の中学生活	2022年8月11日	東京都
7 しおかぜ留学 多くの支えに感謝	2022年8月22日	鹿児島県
8 あいさつの必要性	2022年8月26日	千葉県
9 ジャンベの楽しさ発見	2022年8月27日	東京都
10 硫黄島で気付いた	2022年9月16日	鹿児島県

みんなに優しく

三島硫黄島学園6年生

わたしのしおかぜりゅう学も3年目になりました。新しい仲間もたくさん入ってきて、学校生活がとても楽しみです。6年生になって頑張りたいことを考えました。

一つめは勉強です。わたしは苦手なところがあると復習せず、そのままにすることがあります。でも苦手なところは、できるようになるまで、しっかり復習したいです。

次はみんなに優しくすることです。自分では無意識のうちに、言葉づかいが強くなってしまふことが多いです。周りに言われて気づくので、相手がいやな気持ちになる口調や言葉になっていないか、よく考えて話すように心がけたいです。

三つめは下級生を引っ張るリーダーになることです。年下の子のよいお手本になれるように、分からないことを教えてあげたり、優しく声をかけたりできるお姉さんになりたいです。

これからも硫黄島で、目標達成に向けて努力していくつもりです。



(2022年4月22日 掲載)

新しい発見の毎日

三島硫黄島学園 8 年生

4月から「しおかぜ留学生」として硫黄島での生活が始まりました。虫が好きな僕にとって、今まで見たことのない虫や植物との出会いは驚きと喜びの連続です。魚釣りや海岸清掃など、島ならではの行事にも参加でき、新発見が続く日々です。



先日は、島にギニア出身で日本に在住している方が訪れ、ギニアの文化や歴史について教えてくれました。西アフリカ起源の民族楽器であるジャンベを一緒にたたきました。硫黄島とギニアはジャンベをきっかけにして、交流が行われているようです。

初めてたたくジャンベに難しさも感じましたが、先生や友達が優しく教えてくれるので、楽しい気持ちの方が大きいです。

硫黄島ならではの祭りやカヤック体験などの学校行事を楽しみ、学んで、成長した姿を両親に見せたいと思います。

(2022年6月2日 掲載)

ハマギの夢かなう

三島竹島学園 9 年生

私は昨年4月、三島村にある竹島に「しおかぜ留学」という山海留学制度に希望してやってきました。

学校では、「ハマギプロジェクト」という島を発信する一つの取組みに参加しました。それは島に自生しているハマギ（ボタンボウフウ）を使用したギョーザを商品化しようとするものです。



そして、みんなの思いつきですが、塩田康一県知事にそのギョーザを食べてもらいたいという目標を考えました。製品が完成したのは昨年3月でした。しかし、ハマギがあまり採れなかったり、新型コロナウイルス禍だったりしたので、夢が実現することはありませんでした。

先日、塩田知事が三島村視察のため、竹島を訪れました。学校までは来られませんが、宿でギョーザを食べてもらいました。翌日、「おいしかった。焼酎と合いそうですね。」という感想をいただきました。とてもうれしかったです。

ついに私たちは一つの目標を達成することができました。今年も島のPRに向けて頑張ります。

(2022年6月3日 掲載)

黒島の山を体験

三島片泊学園 8年生

僕は自然や動物が好きなので、三島村のおおかげ留学制度を使って4月に埼玉県から黒島の学校に転入してきた。学校行事でタケノコ採りに山へ行く日をととても楽しみにしていた。

山に入ると、思っていたイメージとは様子が違った。竹ばかり生えていた。蒸し暑くて、道のない急斜面を登っていくのが大変だった。でも先生はどんどん進んで、いっぱいタケノコを採っていたので僕もがんばろうと思った。

最初はきつかったけど、だんだん慣れてきて、自分でタケノコを見つけたときはうれしかった。立派なタケノコが採れたこと、友達と一緒に話しながら山を進んで行ったこと、どちらも楽しかった。

とても疲れたし、服も汚れて大変だった。その分、達成感も大きかった。たくさん採れたタケノコがどんなふうに調理されて給食に出てくるのか、とても楽しみにしている。



(2022年6月18日 掲載)

山海留学して目標できました

三島大里学園 8年生

私は数か月前まで茨城県にいました。今、ここ黒島にいるのは、三島村で山海留学をしているからです。

留学するまで、いろいろな不安がありました。例えば親がいないのに、洗濯なども身の回りのことができるのかとか。

一番心配したのは「学校に行けるようになるのか」ということでした。去年はほぼ休んでました。また行けなかったらどうしようと、ずっと考えていました。

しかし、いざ来てみると、想像していたよりもはるかに楽しい毎日です。学校にも行けるようになりました。まだ一日も休んでいません。

朝はしっかり起きられます。洗濯物は毎日洗って干しています。夜も眠ることができ、今、すごくうれしいです。

やっと自分の目標ができました。この1年間を休まないことです。それに向けて順調に過ごせています。



(2022年6月27日 掲載)

新しい島の中学生活

三島硫黄島学園 7年生

今年4月、僕は三島村の硫黄島に来た。それまでは十島村の宝島にいて、とても楽しい生活を送っていた。

小学校を卒業する1か月前くらいに、母から電話が来た。「今と同じ島でもいいけど、他の島で新しいことに挑戦してみたら」と言われた。離れるのは寂しいけど、せっかくだから中学生になったら新しい島で新しい生活を送ろう、と決めて島探しをした。

たくさんの島の中に一つの島を見つけた。ジャンベという太鼓っぽいやけど太鼓っぽくない楽器だったり、港の海の色が赤オレンジ色だったり、青くてとてもカッコいいクジャクがいたり。たくさんの面白い情報がありワクワクした。その島が硫黄島だった。

検索して出てきたとおり、クジャクがいたり、海がオレンジ色だったり、ジャンベの音色が響いていたりする。素敵な島だなあと思いながら、調べたときにはわからなかった新発見に出合っている。毎日がどきどきだ。

(2022年8月11日 掲載)



しおかぜ留学 多くの人の支えに感謝

三島大里学園 8年

この春、出水市からしおかぜ留学生として三島村にやってきた。

最初は親元を離れる不安の方が大きかった。しかし、今ではたくさんの友達、先生、島民の方、里親さんに支えられ、充実した生活を送っている。

私はこの島で目標ができた。優しさや、あふれるような思いやりの心を持つことだ。私が元気がないときに心配してくれる友達や、分かるまで教えてくれる先生、元気にあいさつをしてくれる島民の方々、悩みを何でも聞いてくれる里親さんー。

ありがたくて、本当に感謝の気持ちでいっぱい。周りの人からもらったたくさんの優しさを、同じように返したいと思っている。

けれども私はしおかぜ留学生として、一人の人間としてまだまだ未熟だ。だから、これからも周囲の人たちの支えがなくてはならないと思う。自然いっぱいの三島村で、できることを一つずつ増やしていきたい。

(2022年8月22日 掲載)



あいさつの必要性

三島硫黄島学園 9 年

「しおかぜ留学生」として硫黄島に来た。島では「あいさつをしましょう」とよく言われる。

朝、島民の方に会ったら「おはようございます」。何かしてもらったら「ありがとうございます」。留学する前もよく言われていた「当たり前」のことだ。

正直、僕は硫黄島に来るまで「あいさつ」がなぜ必要なのかあまり分かっていなかった。というより、「あいさつ」というのを少しばかりにしていた。

しかし、それは間違いだったと最近では思っている。

朝すれ違った人と「おはようございます」と言葉を交わすのは気持ちがいい。「ありがとうございます」と言えば、お互いにうれしいし、少なくとも悪い気はしない。

あいさつはお互いの気持ちを良くし、コミュニケーションを円滑に進めてくれる。だから、「あいさつをしましょう」と言われるのだ。そのことを硫黄島にきてようやく理解することができた。



(2022 年 8 月 26 日 掲載)

ジャンベの楽しさ発見

三島片泊学園 7 年生

本年度しおかぜ留学生として、東京から三島村の黒島にやってきました。三島村では、ジャンベというアフリカの楽器の演奏に取り組んでいます。転校して初めてジャンベに触れました。

これまで音楽があまり好きではありましたが、ジャンベはなぜか楽しくて仕方ありません。手が痛くなるけど、練習をしているとみんなの気持ちが一つになります。分からないところは教え合います。

7 月、鹿児島市の宝山ホールで開催された県中学校音楽コンクール「夏の祭典」に、三島片泊学園は初めて出場しました。本番前はすごく緊張したけど、いざ舞台上に立つと緊張がほぐれ、みんな笑顔で楽しく演奏することができました。

結果は金賞をいただき、島の思い出の一つとなりました。鹿児島市から指導に来ていただいた先生にはいろいろなことを教わりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

2 学期からもジャンベの練習があると思います。新しい曲を覚えるのが楽しみです。



(2022 年 8 月 27 日 掲載)

硫黄島で気付いた

三島片硫黄島学園 8年生

僕は今年、しおかぜ留学で硫黄島に来た。鹿児島県本土で生まれ育った僕にとって、初めは大変な所だった。

まず、お店がない。コンビニやスーパーがないのはもちろん、理髪店などもあまりない。

次にジャンベだ。リズムが独特で、最初は正確な音を出すことができず、いつも端っこに突っ立っていた。

そして児童生徒が少ない。人数が少ないと、新参者の僕と話してくれる人はなかなかいなかった。前の学校はとても友達が多かったから、友達がないのはつらいことだと改めて思った。

今はジャンベにも慣れて普通にたたけるようになった。友達も増えて、毎日楽しい学校生活を送っている。お店の少ないことにも十分慣れてきた。

僕は来年も島で生活するだろう。そして新しい留学生がここに来るだろう。僕がそうだったように、新しい環境で生活することへの不安があるかもしれない。

そんな人には早くこの島に慣れてもらうために、積極的に話しかけていきたい。

(2022年9月16日 掲載)

